

国際婦人年連絡会 世話人 實生 律子
紙谷 雅子
大倉多美子

ノーベル平和賞受賞決定をお喜びいたします

2017年のノーベル平和賞を「核兵器廃絶国際キャンペーン」に授与されるとの報に接し心からお喜び申し上げます。

受賞決定当初から貴会は、「広島・長崎の被爆者や、核実験で被害を受けた人々が続けてきた証言活動が ICAN の活動を支え続け、7月の画期的な条約成立を可能にし、今回のノーベル賞受賞へと導いた。世界のすべての反核運動への表彰でもある」と強調されています。

貴会は、人類への悲惨な警告を発する被爆者の証言に耳を傾け、核の非人間性を訴え続けてこられました。7月国連で採択された、核兵器を違法とする核兵器禁止条約の成立に際し、主導的役割を果たしてこられたことに深い敬意を表します。

核が再び使われれば、人類は破滅へと至る危機が現実のものとなりつつある今、今回の貴会のノーベル賞受賞の決定が、「核兵器ノー」のさらなる大きなうねりへとなっていくことを願いますとともに、貴会のお働きがますます生かされますようにと祈ります。

34の女性団体からなる私たち「国際婦人年連絡会」は、国連の提唱する「平等・開発・平和」を促進するために活動している団体です。発足当初から人類と核は共存できないという考えのもと、核兵器廃絶や核実験の禁止、また原発から自然エネルギーへの転換などを政府に求め続けてきました。唯一の戦争被爆国でありながら、貴会や被爆者の願いに背を向けたままの日本政府に対して、今回の貴会の受賞により新たに背中を押された私たちも引き続き、日本政府が核兵器禁止条約に署名し、批准するよう求めています。